平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200355	事業の開始年月日	平成22年6月1日
		指定年月日	平成22年6月1日
法人名	株式会社　へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあん善行」		
所在地	(　〒251-0871　) 神奈川県藤沢市善行2-23-8		
サービス種別 定員等	□　小規模多機能型居宅介護	登録定員　名 通い定員　名 宿泊定員　名	
	■　認知症対応型共同生活介護	定員　計　18 名 ユニット数　2 ユニット	
自己評価作成日	平成31年1月1日	評価結果市町村受理日	平成31年4月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症による不安を抱えた方たちに「安心感」と「自分の居場所と思える場所」の提供という視点を持ったケアに力を入れています。
・日常生活における自立支援だけでなく、本来、その方が、意味を感じて生活できるように入居者された方の「自律」を促せる支援を心掛けております。

・また、本年度は、ミーティング等において「対人援助論」の考え方をスタッフと共有し、この援助論の視点を持って認知症ケアに取り組めるよう力を入れております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成31年1月17日	評価機関評価決定日	平成31年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
　この事業所は、小田急江ノ島線善行駅から徒歩10分の、バス通りから100メートルほど入った閑静な住宅地にある。周辺は、大規模団地や戸建て住宅が建ち並ぶ地域である。建物は、木造2階建であり、リビング、廊下、洗面所等の共用空間は、大変余裕のあるゆったりした設計となっているのが特徴である。2階フロアからバリアフリーで出られる広いテラスが設置されており、外気浴にも利用されている。
【理念の実践】
　利用者の支援に当たっては、人としての尊厳、権利を守るため、自己決定が出来るような支援を心がけている。また、職員は認知症介護実践者研修を積極的に受講するなど、認知症ケアの理解を深めて、利用者に寄り添い、利用者の不安や気がかりな事を気遣っている。こうした介護の実践が、事業所創設以来の理念に謳われている「感謝の気持ちを忘れず、ゆっくり、笑顔で、楽しみながら共に支え合う関係」の実現に繋がっている。
【法人内での連携】
　法人内に調理部門を持っている強みを活かして、毎日の食事の１食は、調理部門が調理した食事を提供している。昨年は、法人の調理部門と連携して、家族を招いてソーメン流しとクリスマスのイベントを実施している。大勢の家族が参加するなどして大変好評であった。法人内の事業所間では、ワゴン車を融通し合い、利用者の外出を支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
Ⅴ アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん善行」
ユニット名	1階かわせみ

V　アウトカム項目

No.	項目	選択	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ全ての家族と
		○	2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1，大いに増えている
			2，少しずつ増えている
		○	3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての家族等が
			2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあん善行」
ユニット名	2階やまふじ

Ⅴ　アウトカム項目

No.	項目	○	選択肢
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

No.	項目	○	選択肢
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ全ての家族と
			2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1，大いに増えている
			2，少しずつ増えている
		○	3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての家族等が
			2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所、法人の理念を毎朝の申し送り時、及びミーティング時にスタッフで唱和することで意識し、実践できるようにしてる。	事業所理念は、「感謝の気持ちを忘れず、ゆっくり、笑顔で、楽しみながら、共に支えあう関係作りを大切にします」である。理念を玄関、事務室、居間、多目的室に掲示し、毎朝の申し送り時や毎月のミーティングで、法人の理念とともに唱和している。スタッフは「笑顔」を絶やさず利用者に寄り添っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入し、災害訓練への参加や自治会の会合場所の提供等を行っている。 ・地域の知的障害就労支援事業所と協力して、施設内で喫茶室の開催を行った。 ・他、地域ボランティア（畑作業・傾聴）の受け入れも行っている。	自治会に加入しており、事業所の多目的室を自治会の定例会に貸している。近隣の知的障害者就労支援事業所と協同してイベントを開催し交流している。散歩の際は、近隣の団地内の喫茶店に立ち寄っている。オカリナ演奏、傾聴、庭木の剪定、家庭菜園のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	（市内ＧＨ連絡会を通して）認知症サポーター養成講座を開催し、地域支援、認知症への理解の普及を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・昨年度、開催できていなかった当該会議を再開し、施設運営における外部の声を取り込むことができている。 ・本年度は、特に多くの家族に参加してもらい、施設運営に対する率直な意見を聴取できた。	今年度は、8月から2カ月ごとに開催している。会議のメンバーは、自治会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当職員、利用者家族である。日常清掃についての意見を踏まえ、専任スタッフを配置して環境整備に力を入れている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	藤沢市ＧＨ連絡会へ加入し、連絡会定例会へ出席。その席上で、藤沢市の担当者と意見交換等を行っている。	市の職員が運営推進会議に参加し情報交換している。市のグループホーム連絡会も市職員と意見交換する場となっている。管理者は、連絡会主催の「認知症ケア研修」の企画・実施に関わっている。市の介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束に対する指針を掲げ、ミーティングを通して教育研修を行っている。	玄関のドアは安全のため施錠しているが、事業所内は自由に行き来ができるようになっている。身体拘束廃止の研修を毎年定期的に実施している。職員は、虐待の定義や具体例についてレポートを作成して、より理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	※上記同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、社会福祉士として成年後見の受任も行っており、上記の虐待防止研修を通して認知高齢者の権利擁護について指導を行うことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約には、事前の導入も含め十分な時間をとり、懇切丁寧な説明を行っている。 特に、費用のこと、医療体制や医療同意に関わること、看取りケアについて重点を置いて説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本年度は、家族懇談会（運営推進会議を兼ねる）を開催し、多くの家族より施設運営に対する率直な意見を聴取することができた。また、その内容をミーティングでスタッフと共有し施設運営に反映させていくことができていると振り返る。	家族懇談会を運営推進会議に合わせて実施し、家族から多くの意見が寄せられている。家族から「職員が忙しそうにしている。」との意見を受け、業務への取り組み方について職員で話し合い、改善を図っている。家族からの意見で、玄関に出勤職員を写真入りで紹介するコーナーを設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒヤリングシートを活用し、全スタッフと定期面談を行い、そこで聴取できた意見や提案を集約し、ミーティング等で共有し、施設運営に反映させている。	毎月、フロアミーティングとカンファレンスを行い、意見交換をしている。年2回、ヒアリングシートを活用して個人面談を実施し、職員の要望、意見を聞いている。昨年企画、実施した「流しソーメン」は、職員が提案したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記の項目内容について昇給、昇格に反映させ、労働時間も体調等を考慮しいる。ステップアップしていける環境作りを整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・順次、経験や意欲を踏まえ、認知症介護実践者研修にスタッフを送り出し、研修課題をミーティング等で発表してもらうよう企画している。 ・また、新人スタッフについては0JTファイルに基づき、習得技能の確認と面談を通してスーパービジョンを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	藤沢市グループホーム連絡会へ加入し、定期的に意見交換を行っている。 また、連絡会を通して、研修や相互交流、事例発表会を企画し、それを実施できている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問アセスメントを必ず実施し、当人やご家族を含め入居に当たっての課題や不安について把握し、インテークの段階でそれを解消できるよう働きかけ、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	※上記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントにおいて把握した課題や当人の不安に対して、環境整備を含め必要な対応を行なう。また、入居3か月間は少なくとも、頻回にご家族を含めカンファレンス等を開催し、本人が安心できるよう配慮する。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができること、共同でできること等などを見極め、共同生活という視点で役割づくり、関係づくりを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的にご家族と連携を図り、ご家族に関わっていただき、本人とご家族の絆を大切にしている。例えば家族参加のレクレーションや散髪など。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な家族との外出等、ご家族の協力も得ながら行っている。	家族と墓参りや馴染みの美容院に行く利用者がいる。家族との電話、手紙のやり取りを支援している。馴染みになった近隣の喫茶店に出かけたり、ドラッグストアで買物をしている。利用者が得意なハーモニカを演奏している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人の時間と一緒に過ごす時間を意図的につくり、孤立しがちな方も関わり合えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、イベントにご家族を招待したり等の配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	随時モニタリングを行い、あらたなニーズの把握に努め、それをケアプランに反映させている。	居室担当制により利用者と職員の1対1の関係を深め、本人の話を聴いている。利用者が言葉で十分伝えられない場合は、利用者の言葉をそのままオウム返しにすることで、意向や思いを受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず事前訪問にアセスメントを行い、それまでの生活の把握に努めている。また、サービスを利用されている場合はサービス提供事業所からの情報収集も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやミーティング等の場で把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場における職員同士のコミュニケーションにより、本人へのケアの検討が随時行われ、それが介護計画に反映されている。	毎月開催されるカンファレンスで話し合い、職員の意見を介護計画に反映している。医療情報は「受診経過記録」等を活用している。介護計画に沿ったケアが確認できるように、「サービスケア記録」に確認欄を設けている。	

自己評価	外部評価	項　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録し、計画作成時の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に、その時々で必要なサービス、新しい取り組みを取り入れている。例えば、地域の（介護保険外）デイサービス利用等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや知的障害者の就労支援事業所との交流等を行い、左記の項目内容に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には連携医療機関に主治医をお願いしているが、強制はせず、医療機関の選択についても家族希望と同意を前提と考えて支援している。	かかりつけ医の選択は自由であるが、現在は全員が協力医の往診を受ける。協力医療機関から皮膚科、精神科の医師も必要に応じて往診に来る。眼科、歯科は必要時に往診がある。泌尿器科、耳鼻科、整形外科への通院は、家族と一緒に職員も付き添っている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護と医療連携先として契約をしており、定期訪問、緊急時など24時間連絡が取れる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後に定期的に状況確認を行い、退院前にはカンファレンスを医療機関に依頼している。退院の際は、必ず主治医に対する診療情報提供書の作成を依頼し、退院後の医療体制に支障が出ないよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携機関と協力しながら、早期に重度化や終末期に対するカンファレンスを行い、その方針を関係者で共有している。	入居時に「看取りに関する指針」を説明し、利用者、家族の希望、同意に基づき看取りを実施している。終末期には、家族が泊まれるように準備をしている。昨年も看取りを行っている。出棺の際は、利用者、職員が見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	CPRの方法を定期的に確認（申し送り、ミーティング時等）。新人においては採用時研修時に習得してもらうこととなっている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に従い、避難訓練を実施。訓練や訓練後のミーティング時に災害対応の基本的な行動基準等を確認している。	11月に、大地震発生を想定して、消火訓練、通報訓練、避難訓練を実施した。リビングに、利用者用の防災頭巾、非常用毛布が収納されている。防災備蓄は、食料、飲料水とも3日分確保されている。非常用のコンロ、バッテリー、簡易トイレ、持ち出し用医療セット、ハンドスピーカーの用意もある。	11月に避難訓練等を実施していますが、地域の方の参加がありません。運営推進会議の場を活用するなど、地域の方の参加が得られるように、検討されることを期待します。
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意、畏敬の念を持って、お客様としてだけではなく、目上の方として言葉がけや接し方に配慮している。	利用者には、人生の先輩として接しており、敬語を使っている。人としての尊厳、権利を守るため、自己決定を支援している。職員は、「認知症実践者研修」を受講し理解を深めている。個人情報を含む書類は事務所の施錠できるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定できるよう、やろうとしていることを中断したり、スタッフが主導誘導して行わないよう日々のケアにおいて配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課優先ではなく、本人の意向や身体状況に応じた生活の組み立てや過ごし方ができるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについては、本人意向を大切にし、おしゃれについても必要な介助を行っている。例えば、ネイルケア等。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については嗜好、量などを極力配慮し、食事の片づけ等については、入居者の役割として行ってもらっている。	2食は、業者配達のレシピ付き食材を職員が調理しており、1食は法人内の調理部門が調理した食事を温めて提供している。盛り付け、片づけを一緒にしている利用者がいる。食事介助が必要な利用者には、職員は同じ食事をしながら介助をしている。誕生日、クリスマス等の行事の際は、特別な食事の提供がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握し、必要に応じて主治医、看護師と相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々、入居者ごとに必要な口腔ケアを行い、口腔状態を把握し、必要であれば随時、歯科医と連携し検診・受診を実施してもらっている。		

自己評価	外部評価	項　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るよう必要な声かけ、促しを行なっている。	各ユニットにトイレが3か所あり、全て車いす対応のスペースがある。排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。夜間は、共用トイレまで歩行することが難しい利用者には、居室内でのポータブルトイレの使用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、運動の実施やヨーグルト、オリゴ等の整腸作用のある飲食物を積極的に導入している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間帯はほぼ固定しているが、同性介助や午前中の入浴など、ご本人の希望や状態に合わせた配慮をしている。	3日に1回、夕方入浴を原則としているが、希望により柔軟に対応している。脱衣室にエアコンを設置しヒートショック対応をしている。浴室は大変広く3方向から介助できる構造になっている。季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも必要に応じて休養としての睡眠を入れたり、マットやベットの工夫により睡眠環境を整える配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況をファイル等で把握し、症状変化や状態変化が認められた場合、随時、主治医と薬局と連携しながら適切な与薬ができるよう努めている。薬剤管理については、一元的に連携薬局に委託を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる生活家事を行ってもらい役割意識を持ってもらうことや外出やレクレーションについても、個人の嗜好に応じた個別対応を心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物外出や喫茶、散歩等、家族やスタッフが協力しながら、個別的に外出できるよう配慮している。	天気の良い日には、マンツーマンで散歩に出かけている。車椅子の利用者も出かけている。季節には、近隣に名物の菊の花が咲き、利用者の目を楽しませている。初詣には法人のワゴン車で出かけている。商店街で買い物をしたり、喫茶店に寄っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持を希望する場合にはご家族へ説明し、持てるように支援。外出時にお小遣いを用意し、自分で使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや、施設電話の使用は自由に行える環境にある。また、必要に応じて携帯を所持してもらうことも可。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に季節感を取り入れた施設内の装飾に努めている。音楽やBGMについても入居者の嗜好に対応している。	共用空間は、大変広く、リビングとダイニングはそれぞれ確保され、ゆっくりくつろげる造りになっている。キッチンは対面式で、リビングとダイニングの利用者を見守りやすい構造になっている。開口部は大きく、外光が入りやすく明るい空間になっている。リビング等には、季節を感じられる飾りつけがある。広い壁面には、行事写真や書初め等が貼られている。加湿器を設置し、定時に室温、湿度のチェックをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い施設空間を利用し、過ごす場所の選択肢を多く持てるよう配慮。左記の項目内容について取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、居室に馴染の家具や寝具を入れてもらうことで居心地のよい空間が演出できるよう配慮。	エアコン、クローゼットは備え付けであり、介護用ベッド、ポータブルトイレ、歩行器など介護用具は事業所が用意している。椅子、タンス、時計、家族写真、遺影、ぬいぐるみなど馴染みの物が持ち込まれている。居室入口には法人の工房で製作した木製の表札を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の危険箇所の把握を踏まえ、ひとり一人の入居者が施設内で制約を受けることなく過ごせるよう配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名　グループホーム「へいあん善行」

作成日　平成 31年 3月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点・課題点	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	●避難訓練について、地域の方の参加が行われていない。 ×地域密着型施設として、地域の方が避難訓練に参加してくれるような関係性が構築できていない。	・運営推進会議等を活かし、訓練に地域の方が参加できる環境を整備する。	・6月、12月に実施予定の避難訓練については、運営推進会議メンバー等を含め、参加してもらえるよう準備を行っていく。	本年度中
2					
3					
4					
5					